

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

この度の東北地方太平洋沖地震および大津波によって、多くの尊い人命が失われ、多くの方が大切な家や財産を無くされました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

人知を超えた凄まじい大津波が街を襲う映像を見て、言葉を失いました。そして、皆さんも同じだったと思いますが、一技術者として、「何ができるのか、何をすべきか」を悩みました。

私は、斜面防災に関連した調査や設計を行っています。まさに命を守るためのインフラ整備に係わっている訳です。しかし、日々の業務において、人命尊重という自覚が十分であったと言い切れないことを反省しました。

また、巨大津波に襲われた三陸海岸では、過去の被害を教訓として、先人たちが各地に残した石碑の存在が脚光を浴びています。土木技術は経験工学だと良く言われますが、最近は基準書や仕様書に頼った業務が少なくないように感じます(私自身も含め)。これらの基準書は、先輩技術者たちが積み重ねてきた経験や教訓から生み出されたものです。よって、その背景やプロセスを理解することが、非常に重要であると改めて考えるようになりました。さらに、その技術を後進に伝承できるような経験豊かな技術者を目指して、日々研鑽したいと思っています。

佐々木裕一 (ささき ゆういち)

●建設部門(土質及び基礎)

勤務先

北海道三祐 株式会社

e-mail : y.sasaki@dosanyu.co.jp



⇒ 次号は、伊藤 貢さん(応用理学部門)

私が技術士を取得できたのは、ある人との出会いがあったからで、出会わなければ自分は受けることも無かったし、技術士の資格があることも知らなかったと思います。その人は、一次試験の願書を持ってきて受けろと言ってくれました。一次試験を受けては落ちること6年が経ち、その人と同じ課で一緒に仕事をさせていただいた2年2ヶ月は、勤務時間＝勉強時間となる貴重な時間を与えてくれました。この経験があったから私が技術士となれたと、深く感謝しております。また、平成13年から受験することを応援してくれる家族に感謝します。

私も思うに技術士は世の中の役に立ってこそ意味があると考えています。私の携わる公共工事は長い期間使われ続ける物ばかりです。良い物を長く使えて生涯費用は最安、自分の家を建てる時なら誰でも考える様なこと。当たり前と思うことが実際やると結構難しいこともあります。公共工事の品質確保の促進に関する法律もあります。私＝技術士の携わった工事が公共の安全を害するものとならないよう、常に将来を創造し現在考えられるより良い方法を選択できる力を磨き、仕事＝公共工事の品質を上げる努力を継続したいと考えております。総監の感覚は技術者になくってはならない技術だと勉強して感じます。

地方公務員である私は、支えてくれている周りの人達に常に感謝し、公益を確保することがその人達への恩返しになると勝手に思い込み、技術士の品位を汚さぬよう、日々仕事に従事していきます。

佐藤 貴之 (さとう たかゆき)

●上下水道部門
(上水道及び工業用水道)

勤務先

北見市企業局水道課



⇒ 次号は、大澤公浩さん(建設部門)